1　市の概要

（1）地勢、沿革

福山市は広島県の東南端、瀬戸内海沿岸のほぼ中央部に位置する備後地域の中核都市で、南北45.7㎞、東西29.5㎞にわたり、面積は517.72㎢である。

地形は全体的に見ると、平たんな高原やなだらかな丘陵群と比較的広い沖積平野で構成されており、山系は標高200mから600mで、北部に京ノ上山、馬乗山、蛇円山、西部に大谷山、高増山があり、南部には彦山、熊ヶ峰を中心とした小山が連なり、東部は低い丘陵となっている。

その中央部を流れている一級河川の芦田川は、中国地方有数の河川で、市の東北部及び中部の50余の支流をあわせ、その下流に三角州を形成し、瀬戸内海に注いでいる。

一方、市の西部、南部にも藤井川、山南川等の二級河川をはじめとする多くの中小河川があり、その下流に平地を形成している。

南方海上には、仙酔島、走島、宇治島、田島、横島等の島があり、気候は、温暖で雨量が少なく、晴天の日が多い瀬戸内海式気候である。

古代には備後国分寺や備後国一宮である吉備津神社がおかれ、中世には芦田川河口近くに位置する港湾集落である草戸千軒や、その背後に明王院が成立し、古くから潮待ちの港として栄えた鞆の浦が、瀬戸内海の重要な交易拠点として発展した。

近世には、1619年（元和5年）に水野勝成が備後十万石の領主となり、西国鎮衛の拠点となる城郭を築き、地名を「福山」と名付けた。

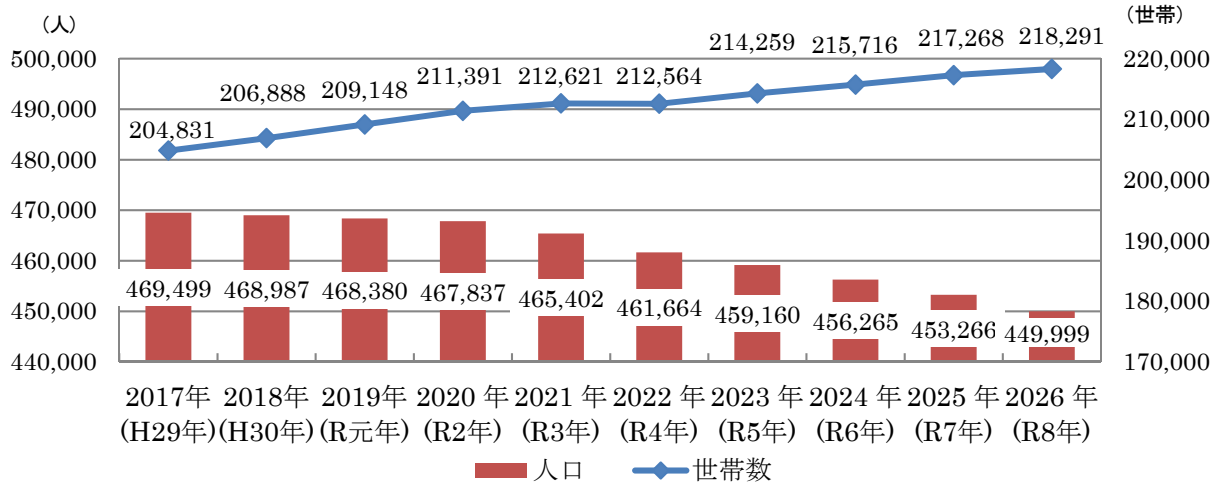
明治以降、福山は備後地域の中心的役割を果たし、1916年（大正5年）に市制を施行し、福山市が誕生しました。1945年（昭和20年）の空襲により市街地の8割を焼失したが、戦後は臨海工業地帯として発展し、1998年（平成10年）には中核市へ移行した。

今日では、人口約45万人を擁する、中国地方では四番目の都市となり、2026年（令和8年）7月には、市制施行110周年を迎えた。

（2）人口・世帯数（住民基本台帳）

人口：449,999人　世帯数：218,291世帯　　※2026年（令和8年）3月31日現在

○人口・世帯数の推移



※人口及び世帯数について、2012年（平成24年）7月から外国人住民の人口及び外国人住民単独の世帯数をそれぞれ含む。